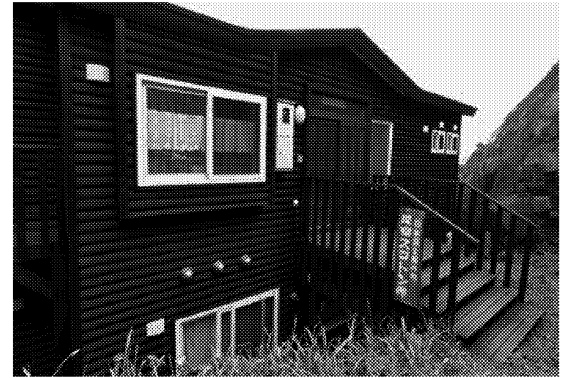


北海道の海産物を「島の民」ブランドで販売するレブニーズ（札幌市）は2021年にも、北海道礼文島にある直営民宿の客室をスイートルームに改修する。インターネット通販の売り上げが20年度に入って9割伸びるなど新型コロナウイルス禍でも好調を維持しており、宿泊ビジネスは高級路線に舵を切る。

礼文島の本店に隣接する「民宿スコトン岬」は夏の3カ月だけオープンする宿泊施設で、現在は1万〜2万円の客単価が「1泊5万円以上にはなる」（同社の鹿内茂光社長）。21年の早期に約5000万円を投資して改修し、8部屋を3部屋に減らして70平方メートルのスイートルーム仕様に変える。高価格路線で統一する狙いだ。

主力の物販ビジネスは「島の民」ブランドで扱う生ウニや昆布、イクラなど地場の海産物、約300商品。鮮度を武器に単価は平均5000円程度と比較的高く、新型コ

礼文島にスイートルーム



「島の民宿 スコトン岬」（写真上）。礼文島は固有の植物や美しい海、海産物が魅力（7月、いずれも礼文町）



レブニーズ、1泊「5万円以上に」

ロナウイルス感染拡大後の巣ごもり需要の追い風をつかんでいる。

20年度決算は売上高が24億〜25億円（前期比14〜19%増）、税引き前利益が3億〜3.5億円と過去最高益を見込む。物産展や店舗の来店客は減った分、通販の売上高は11月末時点で前年同期比9割増で推移している。直近1年以内に通販を利用した「アクティブ会員」は現在15万人ほどで、1年前から1.5倍に急増。正

20年度は通販の売上比が7割強と、約5割だった19年度から高まる計19%増、税引き前利益が3億〜3.5億円と過去最高益を見込む。物産展や店舗の来店客は減った分、通販の売上高は11月末時点で前年同期比9割増で推移している。直近1年以内に通販を利用した「アクティブ会員」は現在15万人ほどで、1年前から1.5倍に急増。正

組合から入札権を得るの港から直接原料を仕入れ、取れたての海産物の卸売りもできるよう

海鮮の通販好調、民宿を改装

繁に入替え、食材の調達から加工、発送までほぼ自前で担って輸送時間を抑える。主要な生産地には社員を常駐させ、漁業者との関係作りにも取り組んできた。

社名は祖父母の出身地でもある礼文島が由来。政府の「Go To トラベル」事業で東京発が解禁された10月には季節外れにもかかわらず、礼文島の本店の来店客が前年同期の2倍に増えた。民宿の改修工事は20年夏に発生した記録的な大雨を受けた復旧工事が一服し次第、着工。屋外には景色を楽しみながらリラックスできるよう、最新式のサウナを設置する計画もある。

21年は通販の使い勝手を改善するためシステム投資や、食品系の企業の事業承継M&A（合併・買収）で規模を拡大する構え。ふるさと納税での提供を増やし「北海道以外での知名度を上げた」（鹿内社長）と上を目指している。

（向野峻）